

自転車 J I S が改正されました

(財) 自転車産業振興協会 技術研究所

1. 改正された J I S

平成 21 年 6 月 20 日付で下記 3 規格が改正公示されました。

- ① J I S D 9 4 1 2 (自転車-ハンドル)
- ② J I S D 9 4 2 1 (自転車-リム)
- ③ J I S D 9 4 5 6 (自転車-錠)

2. 改正の概要

① J I S D 9 4 1 2 (自転車-ハンドル)

- ・従来から一般用自転車に使用されていたステムは、バーを固定する部分とステムパイプが一体であり、ステムをホークステムの内側の引上げ棒及び引上げうすにより固定する構造であった。しかし、MTB 及びスポーツ車にホークステムを外側からクランプする構造のステムが採用され、これが一般用自転車にも普及し始めたことから、試験方法を追加改正した。
- ・疲労強度では ISO に整合化した繰返し荷重試験と JIS 独自の耐振性試験の 2 種類から選択して試験を行っていたが、今回の改正で耐振性試験を繰返し荷重試験に置き換え、試験名称を疲労試験に変更した。

② J I S D 9 4 2 1 (自転車-リム)

- ・旧規格は、JIS D 9421 : 2005 (自転車-リム) であり、ISO 5775-2 に記載された CT リムのバルブ穴径の追加とトレーサビリティに対応し、製造番号又は製造記号の表示規定を盛り込むなど規格を見直した。

③ J I S D 9 4 5 6 (自転車-錠)

- ・旧規格は、JIS D 9456 : 1994 (自転車-錠) であり、自転車の盗難が多発していることから改正が必要になった。大阪府警察本部生活安全部の自転車盗被害に関する調査では、平成 18 年中の自転車盗は、施錠しての被害が 58 %、無施錠での被害が 42 %であった。施錠して被害にあった自転車の 77 %が馬てい錠であり、そのうち 85 %はプレスキーが占めていた。プレスキーは、容易に合いかぎを作ることができ、かぎ穴にマイナスドライバーを差し込むなどにより破壊が容易であることから、プレスキーを禁止し、鍵付の錠は、シリンダを回転または移動させて開錠する構造 (シリンダ構造のキー) とするよう改正した。

なお、今回改正された J I S の内容については、日本工業標準調査会のホームページ (<http://www.jisc.go.jp/>) から閲覧が可能です。